

第10回公開講座

日 時 2018年9月8日(土) 9:30~12:10

場 所 ヒューマンわーくびあ徳島5F大ホール

参 加 60名

内 容 映画鑑賞『そっちやない、こっちや コミュニティケアへの道』

(1982年, 113分 16^ミカラー)

映画解説 講師 NPO法人太陽と緑の会 代表理事 杉浦 良 氏

とくしま社会運動資料センターの第10回公開講座が、9月8日、ヒューマンわーくびあ徳島にて開催されました。労働福祉会館の会員団体の他、資料センターの運営委員、関係者など60名が参加しました。今回の講座は、福祉ドキュメンタリー映画『そっちやない、こっちや コミュニティケアへの道』の鑑賞であり、映画解説・講師として、本作品と関わりの深い杉浦良氏(NPO 法人太陽と緑の会 代表理事)をお招きしました。

この映画は、福祉ドキュメンタリー映画の巨匠・柳澤監督の作品です。映画の前半部分では、障害者にとっての「コミュニティ・ケア＝地域福祉」とは何かを問いかけ、後半からは、知的障害者自らが考え建てた共同作業所「ポパイの家」の完成までを追った記録映画です。講師の杉浦良氏は撮影当時の1979年、同志社大学で福祉を学びながら知的障害者施設のボランティアをしており、映画の舞台となった知的障害者施設(愛知県知多市)の療養グループに指導員として加わっています。

本講座の初めに、主催者を代表して久積センター長より開会の挨拶がありました。久積センター長は挨拶の中で、「一億総活躍を謳っている政府の中核、各省庁の障害者雇用の水増し問題、障害者の人権を否定した見せかけの雇用であり、見せかけの共生であります。人間の尊厳を第一とした共生社会の実現が問われています。映画を観て共に勉強しましょう」と述べられました。

上映に先立ち、講師の杉浦氏より映画の紹介がありました。以下、発言要旨。

:

今回見て頂く映画は1981年に完成しました。今から37年前に国際障害者年があった時です。当時の時代背景をお話します。養護学校(現在の支援学校)が義務化されたのが1979年です。愛知県知多市では養護学校が1校もありませんでした。映画に出てくるハンディを持ったメンバー達の殆どが、就学猶予と言い、「学校へは来なくていいですよ」と言われた人達です。精神保健福祉法が施行されたのが1995年。当時、精神障害と言われている人達は、病人のエリアでした。支援の対象ではないと言われていた時代でした。

今言われている地域福祉やインクルージョンとは随分と状況が異なります。学校に通えず、施設にも入れない様々なハンディを持ったメンバー達が、例え制度が整っていなくても地域で遅く生きていく姿を、映画の中でご覧頂ければと思います。

今、障害者福祉をどのように持続可能な社会にするかという問題が、40年前の映画に大事なス

ピリットがあるのではないかと思います。映画の後半に、当時 20 代だった私の姿が出てきます。それではご覧ください。

:

映画の鑑賞後、質疑応答が行われました。「こうした取り組みは、杉浦さん以降どうなっていますか？」との質問に対し、杉浦氏は「自立支援法が 2006 年に制定され、今映画で見たようなメンバーが作業に参加することは、リスクや安全管理を問われ、非常にやりにくくなる。全国的に見ても少なくなっている」と回答されました。また、太陽と緑の会の現在の状況を聞かれ、「障害者自立支援法に則って運営していないので、就労支援や生活支援は全くしていない。就労支援・グループホーム・生活支援など上手くリンクさせてやっていけば、公的資金を受けられて、もっとステップアップできると言われるが、自分のコンセプトに合わない」と述べられました。

最後に、徳島県労働福祉会館の藤原理事長より、「健常者、障害者の共生について改めて考えさせられ、共に生きていく社会をどう創るのかというのが問われた内容でした。そういう意味では、雇用の問題は共生の原点だと思います」と締めくくりの挨拶がありました。



第 11 回公開講座

日 時 2019 年 1 月 12 日(土) 10:00-12:00

場 所 ヒューマンわーくぴあ徳島 5 階大ホール

参 加 100名

内 容 『セクハラ問題について考える ー鳴門教育大教授セクハラ事件を中心としてー』

基調講演

講師 大西 聡 氏 (弁護士)

パネルディスカッション

パネリスト 大西 聡 氏 (弁護士)、磯田正江 氏 (元連合徳島女性委員長)、

東條恭子 氏(ストップDV・サポートの会)、元大学院生(事件被害者)

コーディネーター 乾 晴美 氏(AWA女性問題研究所)

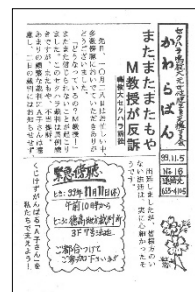
一般社団法人徳島県労働福祉会館が運営する「とくしま社会運動資料センター」の第 11 回公開講座が、1 月 12 日(土)、ヒューマンわーくぴあ徳島 5F 大ホールにて開催されました。『セクハラ問題について考える ー主に鳴門教育大教授セクハラ事件についてー』と題した 2 時間の講座に、約 100 名の方が参加しました。

冒頭、労働福祉会館の久積センター長より開会の挨拶があり、続けて徳島弁護士会の大西聡弁護士の基調講演が行われました。

基調講演では、セクシャル・ハラスメントについての歴史的背景から、ハラスメントの定義、法律責任まで、詳細な解説がなされました。鳴門教育大学教授の事件については、木村清志法律事務所の勤務弁護士としてスタートした1年目に担当したこと、類似案件に乏しいため学術論文を分析し理論構築を行ったこと、不法行為の立証が難しかったことなど話されました。元大学院生との面談では、「訴訟となると衆人環視に晒され、嫌なことも供述しなければならない」ことを告げましたが、彼女の「大学改革のためにも訴訟を起こしたい」という覚悟に押されたと述べられました。そして、地裁への提訴から最高裁の判決まで3年を要したが、やはり教授からの手紙という物的な証拠があったことが決め手となったことを挙げられました。

基調講演の後、当時の支援メンバーによるパネルディスカッションが行われました。事件当初、元大学院生から相談を引き受けた元参議院議員の乾晴美氏がコーディネーターとなり、支援団体の中心的存在であった連合徳島女性委員会の当時の委員長・磯田正江氏、連合徳島の書記担当であった東條恭子氏、基調講演に引き続いて大西弁護士、そして事件被害者であり元大学院生の女性と、4名がパネリストとなり、当時の様子や本裁判の社会的意義について語りました。元大学院生は、「大学側も初めは隠蔽しようとする態度が見えた。もし教授が誠意をもって謝っていたら裁判には至らなかった。裁判を起こしたときは、やはり周りの人たちに理解して貰えないことが最も辛かった。最後まで支えてくれた支援者の方たちには本当に感謝している」と述べられました。

最後に、藤原理事長より締めくくりの挨拶があり、閉会しました。



第12回公開講座

日時 2019年3月16日(土)10:00-12:00

場所 ヒューマンわーくびあ徳島5階大ホール

参加 48名

内容 部落史関連講座(1)

「徳島の部落史研究・前近代編—『部落史の見直し』と現状をめぐって—」

講師 長谷川 賢二 さん (徳島県立博物館 副館長)

「近現代部落史研究の現在—部落差別の歴史的把握はいかになされてきたか—」

講師 吉村 智博 さん (国際日本文化研究センター 客員准教授)

とくしま社会運動資料センターの第12回公開講座が3月16日、ヒューマンわーくぴあ徳島において開催され、48名の方が参加しました。資料センターでは2017年6月より、解放同盟徳島県連や徳島解放研究所から寄贈された約5千点の資料を基に研究者の協力を得て「部落史に関する協議」を進めて来ました。そして徳島における部落史年表(前近代編・近代編)の素案がまとめられ、部落史・社会運動史関連講座を開催する運びとなりました。

冒頭、資料センターの久積センター長より「1年前より徳島の部落史と社会運動史について研究を行ってきた。それを形にするということで連続4回、計7コマの講座を開催します」と挨拶がありました。

1コマ目は徳島県立博物館副館長の長谷川賢二さんに「徳島の部落史研究・前近代編―『部落史の見直し』と現状をめぐって―」というテーマで、2コマ目は国際日本文化研究センター客員准教授の吉村智博さんに「近現代部落史研究の現在―部落差別の歴史的把握はいかになされてきたか―」というテーマで、それぞれ約50分の講座を行って頂きました。

閉会に際し、労働福祉会館の藤原理事長より「今回を含めて4回の連続講座を報告書として取りまとめ、資料として残していきたい」と締めくくりの挨拶がありました。



川崎市労働資料室及び松沢資料館視察研修

日時 2018年12月14日(金)～15日(土)

場所 賀川豊彦記念・松沢資料館[東京都世田谷区上北沢3-8-19]ほか

〈往〉徳島空港～羽田空港～川崎市労働資料室～松沢資料館～[宿泊地]

〈復〉[宿泊地]～早稲田大学または主婦会館～羽田空港～徳島空港

参加者 6名 久積育郎、中野輝行、森本佳広、辻博史、乾晴美、藤原学

年末も押し迫った12月14～15日、川崎市労働資料室及び賀川豊彦記念館・松沢資料館視察と、賀川豊彦生誕130周年記念講演会に久積センター長他五名(藤原・乾・森本・辻・中野)が参加した。

最初の視察先である川崎市労働資料室では川崎労福協の浅見美知子事務局長補佐から「この会館(労働会館)は指定管理者によって運営されているが、資料室は労福協に再委託することが条件となっている」との説明を受け、その後耐火設備となっている資料室などを見学した。耐火設備での資料は第一回の総評大会議案や神奈川県以外の他県の労働運動資料などが多くが保存

されていた(高知や愛媛などの資料はあったが、徳島関連は残念ながら見当たらなかった)。また、労働法関連の「川崎労働学校」が開催され、この10～11月に開催された労働学校(受講料3,300円、募集人員70人、午後6時30分から8時30分、15回)は114期を数えていた。次に訪れた松沢資料館(1923年の関東大震災救済活動後の31年に松沢教会を設立し、82年に隣地で開館)では、賀川豊彦の生涯を要約した映像を見た後、杉浦秀典副館長による館内の資料(震災後の関東での活動から戦後)の説明を受けた。

翌日は、来年1月に開催の社会運動資料センター公開講座「セクハラ問題について考える～鳴門教育大教授セクハラ事件を中心として～」について、乾晴美さんを中心に事件被害者を交えて打合せを行った。その後、「賀川豊彦生誕130周年記念講演会」が開かれる早稲田大学へ向かった。会場では、鳴門市賀川豊彦記念館の資料も展示され、岡田健一館長にもあいさつ。映像で振り返る賀川豊彦の生涯(映画の短縮版)、精神科医・香山リカ立教大学教授によるオープニングは「助けあえない時代の若者たち」をテーマとした講演があり、香山教授は「以前は労働組合や自治会など公共と個人をつなぐ中間組織があったが、今はそれらの組織がなく、多くの人たちが助け合うこともできなくなった。NPOやサークルなどの様々な中間組織を作っていくことが必要」と強調した。

文・中野輝行



部落史資料作成に関する協議

《開催日程》

第11回 2018.5.30, 第12回 2018.7.30, 第13回 2018.9.3, 第14回 2018.10.15,
第15回 2018.12.17, 第16回 2019.2.4, 第17回 2019.3.4

《協議メンバー》

関口(四国大), 長谷川(県立博物館), 生駒(県立図書館)
久積(センター長), 中野(運営委員), 藤原(法人理事長)

《主な協議事項》

1. 徳島の部落史年表及び社会運動史年表のまとめ
2. 聞き取り
3. 公開講座の開催

部落史関連講座(1)「徳島の部落史研究・前近代編」「近現代部落史研究の現在」 3/16

部落史関連講座(2)「徳島から見た近代の部落史研究」「聞き取り調査報告」 8/?

部落史関連講座(3)「徳島の被差別民と芸能文化」 6/1

社会運動史関連講座(1) 「徳島における戦後社会運動の特徴」 11/?

社会運動史関連講座 (2)「徳島における戦後の教職員運動」 〃

4. 冊子の作成

部落史・社会運動史関連講座全 5 回をとりまとめ、冊子※を作成する。

※製本規格は、『輝いた阿波の女性たち』（A5版 198p 白黒）を参考にする。

2018 地域ふれあいフェスタ in わーくびあ —実施報告—

今年で第5回目となる「2018 地域ふれあいフェスタ in わーくびあ」が、8月19日(日)、ヒューマンわーくびあ徳島にて開催されました。労働福祉会館の夏の恒例イベントとして定着しつつあり、労働者福祉事業団体、NPO・ボランティア団体などの協力のもと様々な子供向けブースが設置され、地域の方や親子連れなど約190名が来館しました。

親子木工教室では、子ども達はお父さんお母さんと一緒に金槌を叩いてティッシュケースを作りました。親子陶芸教室は一番人気のブース。指導員さんに手を添えられて、轆轤(ろくろ)の粘土をじっと掴んでいました。また絵手紙教室では、保護者の方も一緒になって筆を走らせていました。その他、プロカメラマンによる親子撮影会や人形劇、バルーンアート、電気工作コーナーも多くの子ども達で賑わいました。玄関フロアでは、お菓子や野菜の販売、軽食コーナーの他、NPO法人クレールによるボールすくい game が設けられ、フェスタの雰囲気を作ってくれました。

4時間という短い時間でしたが各階とも活気に溢れ、夕暮れ時まで子どもたちの歓声に包まれていました。



《ブース一覧》	
親子陶芸教室	だいやま陶芸村
絵手紙教室	福井さん
バルーンアート	森奥さん
夏休み自由工作	
人形劇	フードバンクとくしま
親子木工教室	フレッセ
親子の無料撮影会	スタジオサークル
出店コーナー	Creer
	きのこハウス
	いのちのさと
	リサイクルショップa+ya
	ボランティア友の会ひまわり

2018 地域ふれあいフェスタ in わーくびあ

参加無料

2018年8月19日(日) ヒューマンわーくびあ徳島

13:00~17:00

親子木工教室 13:00~14:30

親子陶芸教室 13:00~14:30

絵手紙教室 13:00~

出店コーナー

親子撮影会 13:00~

バルーンアート

夏休み自由工作

日本親子撮影会協会

スタジオサークル

フードバンクとくしま

Creer

きのこハウス

いのちのさと

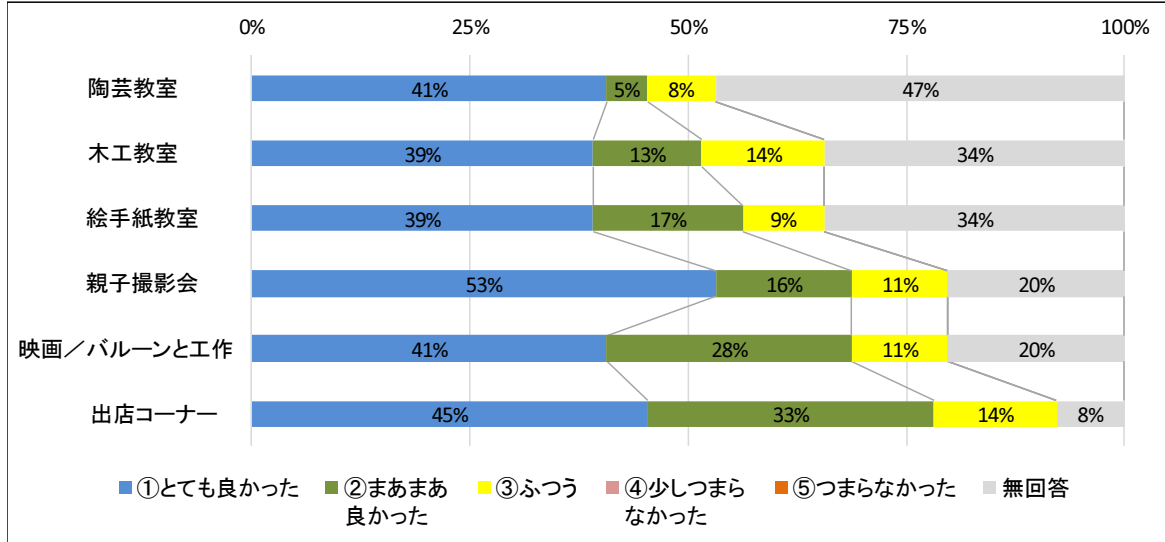
リサイクルショップa+ya

ボランティア友の会ひまわり

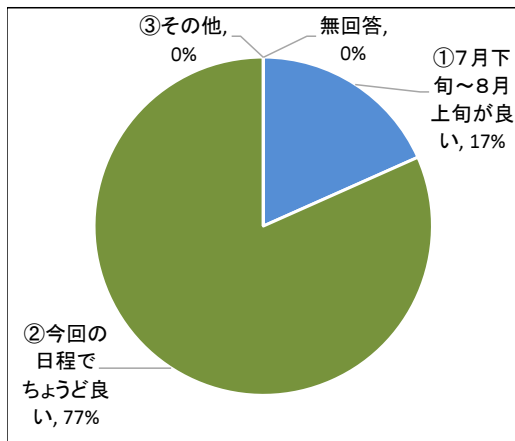
『2018地域ふれあいフェスタinわーくぴあ』 参加者アンケート結果

回答数者64人

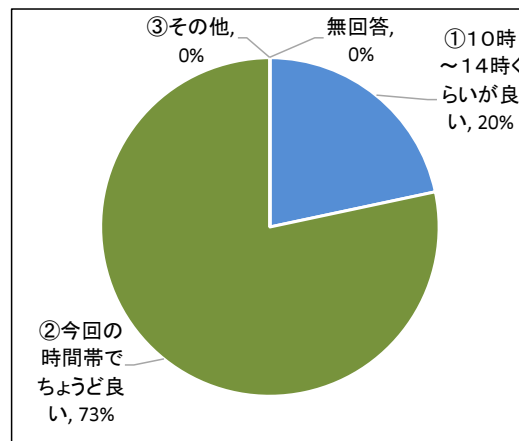
【1】各イベントはどうでしたか？



【2】日程はどうでしたか？



【3】時間帯はどうでしたか？



【4】自由意見欄

(良かった点)

いつもスタッフの皆さんがとても温かいです。涼しい所で小さな子を連れて参加しやすいです！
いろいろな体験が出来て楽しかったです。夏休みの思い出作りに良かったです。

木工教室は本立が良かった。

新鮮な野菜を安く買えることにも感謝です。

陶芸教室でお茶碗などを作れていい経験になった。また来たいと思った。

テレビゲームを初めてして楽しかったです。

絵手紙が上手に出来て嬉しかった。

毎年作品づくりをしている子供の姿を写真におさめることが出来、嬉しく思っています。

このフェスタが長く続くことを祈っています。ありがとうございました。

(悪かった点)

お昼を跨いでもいいかも？

もう少し涼くなってからも良いかなと思った。年2回くらいあったらいいのにな！

駐車場が少し迷いました。

毎年来ていますが今年は予約してなかったのが楽しめませんでした。大好きなイベントだったので残念です。

陶芸も参加したかったです。陶芸の人数、もう少し多くあって欲しかった。

工作が当たらなかった。残念。

2018 年度 テナント・施設貸与事業 事業報告

1. 事業報告

(1) 会館運営について

- ・一般社団法人への移行及び第2期中期経営計画の5年目である本年度は、一般社団法人としての法人運営を基本として、経営の健全化と安定化に努めました。
- ・本館2F屋上の倉庫を撤去し、防水工事を行いました。
- ・本館7F屋上にKDDIアンテナ基地局の受信機増設工事を行いました。
- ・引き続き受動喫煙の防止に努め、また植樹を行うなど環境への配慮、美化活動に努めました。
- ・非常階段の放置物を撤去、消防計画の見直しなど、館内の安全管理に努めました。
- ・消防訓練、普通救命講習を実施しました。

(2) 管理業務委託について

- ・会館運営を効率的に行うため管理業務をNPO法人「壮生」に委託し、シニアのワークシェアリングによる働く場作りによる会館運営を行いました。
- ・わーくびあ運営に関するさまざまな課題に対しては、定期協議の他、随時運営事務局と連携し、日常的な事務局段階での話し合いで対応しました。

(3) 法人運営について

- ・本年度は 1,960,000 円の会費収入がありました。
- ・2013 年度臨時総会の決議に基づく公益目的支出計画に従い、行政庁の監督のもと実施事業を行いました(※1)。公益目的財産額は、124,916,879 円(算定日 2014 年 3 月 31 日)であり、当該事業年度の公益目的支出の額は 3,721,607 円(※2)、当該事業年度の実施事業収入の額は 0 円、当該事業年度の公益目的収支差額は 16,792,107 円、当該事業年度末日の公益目的財産残額は 108,124,772 円となりました。

※1 社会運動資料センター事業及び地域ふれあいフェスタ事業の2事業のこと。[別冊:実施報告書]

※2 支出明細は 2017 年度正味財産増減計算書内訳表をご参照ください。

- ・会員数は 75 会員であります。
- ・会員団体の産別組織への一元化への取組について、昨年度より引き続き、各組織への説明訪問に伺いました。

(4) 合併準備会について

- ・将来の新館建設を展望した検討委員会答申に基づき、公益社団法人労働者福祉協議会との法人統合(合併)へ向けた準備を進めました。具体的には、合併準備会を設置し(計7回の開催)、合併へ向けた諸課題について検討を行いました。そして本年 5 月 30 日の第3回理事会に於いて、労福協との合併協議の開始並びに合併協議会の設置について、承認がなされました。[別紙]

(5) 財務状況について

- ・本年度の総資産は、流動資産計 56,863,696 円、固定資産 174,011,142 円、合わせて 230,874,838 円となりました。

- ・本年度の経常収益は54,114,379円、うち会費収入1,960,000円、事業収益(家賃・貸室収入他)50,875,109円、事業外収入1,279,270円(利息・配当他)となりました。
- ・経常費用は、5,618,789円の減価償却費を含めた事業費が35,966,821円、管理費9,664,980円、合わせて45,631,801円となりました。
- ・法人税等充当額は1,582,900円となりました。
- ・四国労働金庫から32,370,888円を借り入れしていますが、今年度は4,389,148円の返済を行いました。その結果、借入残高は27,981,740円となりました。尚、徳島県及び徳島市よりの借入金が一昨年度を以て完済しているため、理事会の決議に基づき、今年度、1,200,000円の繰り上げ返済を行いました。

(6)労働者福祉運動の支援について

- ・労福協を中心として実施された様々な労働者福祉事業に協力し、積極的に参加しました。
- ・シニアライフを支援するNPO法人「壮生」の活動として、折り紙教室、パソコン講座等を開催しました。
- ・障害者の就労支援として、駐車場管理を引き続きNPO法人「徳島県腎臓病協議会」へ再委託しています。
- ・障害者の自立支援を行うNPO法人「Creer」の活動として、お弁当の館内販売を行いました。
- ・同じく障害者支援を行うNPO法人「いのちのさと」、NPO法人「きのこハウス」、学校法人「光の村学園」による野菜・お菓子等の館内販売を行いました。
- ・西日本豪雨カンパ活動、労働者自主福祉推進員養成講座、ごみゼロ阿波踊り大作戦などに参加しました。
- ・自殺予防活動協力機関として、講演会、研修会、街頭啓発活動に参加しました。
- ・「いきいき安心とくしま子ども食堂」「シニアカフェ グランマ」「フードバンクとくしま越年支援」に、それぞれ協力しました。
- ・地域のために活動するNPO法人や市民活動団体を支える「ハートフルゆめ基金とくしま」、クラウドファンディングによる「徳島市ふるさと応援寄付金」に寄付しました。

(7)公益目的事業について

・社会運動資料センター事業

公益目的支出計画に基づく事業として社会運動資料センター事業を実施しました。賀川豊彦をはじめとする社会運動に関する資料、とりわけ団塊の世代の書籍・資料の収集を図り、同時に公開講座を開催しました。具体的には、運営委員会を設置し、センターの運営や資料の選別については専門家の助言を得て行いました。収集した資料は室内に展示し、一般の方誰でも閲覧可能としました。公開講座はチラシを作成して館内に掲示、またホームページや新聞に告知掲載しました。

公開講座では、福祉ドキュメンタリー映画『そっちやない、こっちや コミュニティケアへの道』の上映の他、前連合総研副所長の龍井葉二氏による講演「戦後労働運動と働き方改革」、鳴門教育大教授セクハラ事件をテーマとした講演及びパネルディスカッション、そして徳島における部

落史・社会運動史関連講座の第1回目として前近代、近現代編の講座をそれぞれ行いました。

・地域ふれあいフェスタ事業

公益目的支出計画に基づく事業として地域ふれあいフェスタ事業を行いました。今年度も『支え合い』『家族の絆』等をテーマとして、親子陶芸教室、親子木工教室、絵手紙教室、親子の無料撮影会、人形劇、飲料・軽食・小物販売コーナーなどの家族向けイベントを8月に開催しました。広く一般の方が参加可能とし、参加無料としました。広報については、地域へのチラシ配布、新聞紙面への広告、ホームページに掲載等、広く周知を行いました。

[別冊:実施報告書]

2. 活動記録

日時	内容	備考
2018年		
6 22	労福協第8回定期総会	502号室
〃	労働福祉会館第5回通常総会	〃
7 7	賀川豊彦生誕130周年記念特別講演会・同祝賀会	徳島市シビックセンター
30	部落史資料作成に関する協議<12> ★	資料センター
31	第29回労働者福祉6団体会議	労福協ミーティングルーム
8 〃	徳島地方自治研究所2018年度通常総会	自治労プラザ
12	ごみゼロ阿波踊り大作戦	徳島市役所北エアトラベル前
19	2018地域ふれあいフェスタ in わーくびあ ★	ヒューマンわーくびあ徳島
21	西日本豪雨カンパ活動①(25日に②)	徳島駅前
22	徳島県商工労働観光部長等との懇親会	阿波割烹五十鈴
25	NPO法人・市民活動団体交流会	沖洲マリンターミナル
〃	第1期労働者自主福祉推進員養成講座<1>	ろうきんホール
9 3	部落史資料作成に関する協議<13>	資料センター
8	とくしま社会運動資料センター第10回公開講座	ヒューマンわーくびあ徳島
〃	第9回運営委員会 ★	302号室
13	西部労福協第3回拡大幹事会	神戸三宮ユニオンホテル
22	第1期労働者自主福祉推進員養成講座<2> ★	自治労プラザ
10 15	部落史資料作成に関する協議<14> ★	資料センター
20	第1期労働者自主福祉推進員養成講座<3>	ふれあい健康館
21	2018連合徳島・3地協合同秋の大運動会	吉野川南岸運動広場
23	庫倫旗第一中学代表団歓迎と交流の夕べ	阿波観光ホテル
24	西部会館協第2回幹事会及び第31回定期総会	ヒューマンわーくびあ徳島
30	丹東市訪問団歓迎の招宴	JRホテルクレメント徳島
11 3	県民と働く者のとくしまフェスタ2018	502号室
8	西部労福協第37回研究集会(～9日)	高知市
10	ボランティアひまわり結成20周年記念誌発行式典	ホテルグランドパレス
12	<第1回>労福協・労働福祉会館 合併準備会	302号室
26	<第2回>労福協・労働福祉会館 合併準備会	〃
28	労福協第1回理事会	502号室
12 2	合同研修ツアー	大阪市
4	2018年度四国労働金庫徳島支店下期推進委員会	5F大ホール
10	第26回労働者福祉メーデー	〃
〃	2019春季生活闘争徳島県共闘会議発足総会	〃

	13	2019 年度事業の徳島県知事要請	徳島県庁知事室
	14	川崎労働資料館及び松沢資料館視察研修(～15日) ★	川崎市他
	15	第1期労働者自主福祉推進員養成講座<4>	徳島県教育会館
	16	「広がれ、こども食堂の輪全国ツアーin 徳島」	四国大学
	17	部落史資料作成に関する協議<15> ★	資料センター
	20	2019 年度事業の徳島市長要請	市役所町議室
	21	Creerクリスマスパーティーと紅白歌合戦	5F 大ホール
	〃	連合徳島中央地域協議会第9回委員会	502 号室
	24	第1回とくしま結婚支援ネットワーク会議	JA会館
	25	<第3回>労福協・労働福祉会館 合併準備会	302 号室
	27	第6回フードバンク年越支援	ヒューマンわーくびあ徳島
	28	仕事納め	
	2019 年		
1	4	仕事始め	
	8	2019 連合徳島旗開き	徳島ワシントンホテル
	12	とくしま社会運動資料センター第11回公開講座 ★	5F 大ホール
	21	徳島県自殺対策パワーアップ研修会	徳島県立総合教育センター
	26	第1期労働者自主福祉推進員養成講座<5>	徳島県教育会館
	31	労働福祉会館第1回理事会	502 号室
2	4	部落史資料作成に関する検討会議<16> ★	資料センター
	5	<第4回>労福協・労働福祉会館 合併準備会	302 号室
	11	#Me Too 女性がつながって創る、性暴力のない社会	5F 大ホール
	15	共同デスク編集委員会	労福協ミーティングルーム
3	4	部落史資料作成に関する検討会議<17> ★	資料センター
	5	モンゴル研修生歓迎会	徳島グランヴィリオホテル
	6	マリッサとくしま婚活連絡協議会	アスティとくしま
	10	2019Syunto ふれあいファミリーデー	あすたむらんど徳島
	11	<第5回>労福協・労働福祉会館 合併準備会	302 号室
	16	とくしま社会運動資料センター第12回公開講座	5F 大ホール
	〃	自殺対策強化月間における街頭啓発	ゆめタウン徳島
	19	労働福祉会館第2回理事会	502 号室
	〃	労福協第2回理事会	〃
	25	第10回運営委員会 ★	302 号室
4	18	<第6回>労福協・労働福祉会館 合併準備会	〃
	22	部落史資料作成に関する検討会議<18> ★	資料センター
	25	西部ブロック労働者福祉会館協議会幹事会	広島県福山市
	29	モンゴル国からの研修生送別会	木の花
5	7	第11回運営委員会 ★	302 号室
	23	徳島県労働福祉会館 2018 年度会計監査	〃
	24	NPO 法人壮生第11回通常総会	〃
	25	賀川豊彦記念・鳴門友愛会第18回通常総会	鳴門市賀川豊彦記念館
	27	<第7回>労福協・労働福祉会館 合併準備会	302 号室
	27	部落史資料作成に関する検討会議<19> ★	資料センター
	30	労働福祉会館第3回理事会	502 号室
	〃	労福協第3回理事会	〃
6	1	とくしま社会運動資料センター第13回公開講座 ★	大ホール
	7	2019 年度中央労福協全国研究集会(～8日)	熊本市

注)不参加行事も含めています。★は公益目的事業。